

東日本大震災救援活動 特別号

2011年
(平成23年)

念仏のこころに生きる生活を

五位組だより

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組

題字・織田隆夫



被災にあわれた親鸞聖人立像と倒壊した鐘楼

仙台市宮城野区 専能寺 (2011年4月27日15時57分撮影)

支援車



1. 団体参拝を控えて

この度は、第二号組報発行にあたり五位組門徒推進員各位のご苦勞に敬意を表します。昨年第一号が発刊されて早一年近い年月がたちましたが、本当に激動の一年間となりました。

平成23年3月11日に起こった東日本大震災は日本国民そして世界中の人々に大きな衝撃と不安と恐怖を与え、24時間報道され続ける現実を目の当たりにし、何をどうすればいいのか解らないまま、時間だけが過ぎ、私たちに何か出来る事はないのかと自問自答の日々をおくりました。そのような中、五位組では「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」団体参拝準備の最終段階に入っており参加者名簿の整理・パンフレットの作成等に役員全員が奮闘いたしております。

一時、団体参拝の延期も考えておりましたが、本願寺は「被災者の悲しみに寄り添い肅々と法要をおこなう」との見解を出され、重ねて五位組門信徒の強

い願いを受け、予定通り4月10日・11日の団体参拝参加への意向を固め引き続き準備をいたしました。しかし、震災の現実から目をそらす事無く「念仏をいただく私たちは今後どの様に生きるのか」を問われていると感じ、親鸞聖人に「震災の現実とどう向き合うのか」を尋ねる参拝旅行を目指しました。

お蔭様で、団体参拝は三百五十人の参加をいただき、比叡山延暦寺参拝・大谷本廟納骨・法要参加・帰敬式受式等一連の日程の中大きな事故怪我病気も無く、バスの中では募金活動も行い無事盛況の中終えることができました事、あらためて組内寺院各位並びに参加頂いた門信徒の皆様にご心より御礼申し上げます。団体参拝が終わり、直ちに「災害支援」活動準備に取り掛かりましたが、クリアしなければならぬ問題は多岐にわたっており被災地への出発までは大変苦勞いたしました。詳細は次項より項目別に明記させていただきます。

五位組 第二号組報発刊挨拶 五位組組長 織田隆夫

2. 第一回支援活動に関して

震災直後より本願寺が東北教区仙台別院内に立ち上げた「浄土真宗本願寺派東北教区災害ボランティアセンター」と連絡を取り、災害状況の確認・復旧支援活動の状況等の確認を数十回行い五位組としてできる支援活動内容に関して検討を重ねました。その結果現地では、温かい食事が取れていないとの事で「炊き出し」の要請を受け、物品では野菜とスリッパの依頼を受けました。四月中旬に役員と相談し日程を4月25日(月)～28日(木)とし準備にとりかかりましたが、役員だけでは準備も当日の作業内容もままならず、できれば一般の門信徒の参加をいただければと考え五位組門徒推進員の方々に協力依頼いたしましたところ、快く受諾いただきました。4月中旬に五位組役員(8人)・門推役員(7人)で対策協議会を開催いたしました。その結果被災地への参加者は寺院3人・門推2人の計5人となり

ました。東北より依頼を受けた炊き出しに関しては五位組役員が準備し、物品の野菜は門推の方々に準備をいただきました。炊き出しは四百人分の依頼があり、素人の私達にできる作業を模索した結果、「うどんの炊き出し」と致しました。

また、高岡市に問い合わせたところ救援活動参加団体に対しての支援規定があるとの情報を得、早速手続きを行い、仙台までの往復高速料金(一万五百五十円×往復×2台)と燃料補助金(二万円)の交付を受ける事ができました。炊き出し用の調理器具に関しても問い合わせたところ、高岡市観光協会備品の大釜やざる等は無償でお借りできることができ大変たすかりました。



第一回の支援活動に参加された皆さん

(2011年4月25日8時57分)

3. 第二回支援活動に関して

6月12日(日)～15日(水)に第二回支援活動を行ってまいりました。今回は、一般参加の方を含め5人のメンバーで二日間の炊き出しと一般住宅の清掃等の準備をして向かいました。場所は前回と同じく仙台別院をベースキャンプとし、仙台の東北東15キロ地点にある七ヶ浜町の避難所での炊き出しを行いました。

七ヶ浜町は、日本三景のひとつ松島湾の南側にある風光明媚な半島でしたが10数メートルの津波をもろにうけ被害も甚大でありました。高台にある町の施設に60～70名あまりの被災者が避難生活を送っており、数日前より仮設ハウスへの移動が始まり、被災者の人数も少なくなっているとの情報でありましたが、いざ一日目の炊き出しを始めた所、仮設ハウスへの移動された方も含めなんと130名あまりの方が来られ、食器は不足するや、材料が不足するなど

てんでこ舞の有様でありました。しかしながら、仙台より合流していただいた調理師免許をお持ちの2人のスタッフの協力により何とか事無きを得、無事に終了することができました。一日目の献立は「豚汁」、二日目は「トッピングうどん」としておりましたが、70名分の材料しか用意しておらず、二日目は午後から仙台の町で食器や材料の買出しを行いました。午前中は、七ヶ浜地区の排水路清掃作業に従事し、泥だらけの体を水で洗い流した後炊き出し作業を行いました。この日も130人あまりの方々とうどんを作り無事終了し、片付けが終わりかえり際には多くの避難所の方々が拍手で見送っていただき大変感謝いたしました。



第二回の支援活動での炊き出しの「うどん」

(2011年6月14日15時7分)

4. 考察

現在までの支援活動を振り返り、いろいろと考えさせられることも多く五位組内で意見の構築が必要だと思われまます。私たちは、数日間の活動をしてまいりました。僧侶として被災現場で、遺体安置所において読経ができないだろうかと準備もいたしておりましたが、そのような思いは口に出すこともできない状況でありました。炊き出しに関しても、大変喜んでいただき多くの感謝のお言葉もいただきましたが、「明日の夜は何を頂けるのですか？」と聞かれて即座に答える言葉はありませんでした。



仙台別院内

東北教区災害

ボランティアセンター

(2011年4月26日8時48分)

「東北教区災害ボランティアセンター」より依頼を受け準備していった野菜やスリッパも、私たち自身の手で避難所に届けることはできませんでした。

親鸞聖人のお言葉（歎異抄 第四条）「慈悲に聖道・浄土のかはりめあり。聖道の慈悲といふは、ものをあわれみ、かなしみはぐくむなり。しかれども、おもふがごとくたすけとぐること、きはめてありがたし。（中略）今生に、いかにいとほし不便とおもふとも、存知のごとくたすけがたければ、この慈悲始終なし。」（註釈版 八三四項）が胸に突き刺さる思いでおりますが、何かをせずにおれなかつた私達自身の心に嘘偽りはありません。この思いを胸に今後私達にできる支援活動とは何なのか、方法・手段・手順・情報収集発信等はもちろん、私たち自身の学びを深め、五位組災害支援形態の構築を目指さなければなりません。本願寺や高岡教区の動向も大切です。しかし大きな組織には限界があります。組

織とは小さなコミュニティの集約に他なりません。五位組というコミュニティから何を発信し人々の願いを集約し形と力にする方法を皆で見つけ出せればと思えます。まずは、「自分にも何か出来る事はないのか」という気持ちがあるのか、私達に問われているのではないのでしょうか。

今回の活動で、大体の予算配分を知ることができました。長期的な支援活動ができればと考えております。その際は、もっとしっかりとした情報を持ち、人々の勇気と願いを集約できる成熟した組織作りができればと切願いたしております。



仙台市若林区の中学生の

皆さんと共に

(2011年4月26日16時34分)

5. 今後の活動に関して

①活動母体は、五位組役員及五位組門徒推進員役員より選任した委員により『五位組災害対策協議会』を設立する。

②五位組災害緊急支援指針の作成を行う。

③中長期的には、来年3月までの一年間を目途として支援活動を行う。

④募金に関しては、7月下旬に「支援金」としてお願いしていく。

⑤各寺院・教化団体・門信徒への「支援金」募集を順次行っていく。

⑥活動報告等の情報の発信は寺報・組報・教区報等にて行う。

⑦短期的には、現地の復興状況に合わせ7月～9月にかけて第三・四陣の派遣を行う。

※まだまだ問題は山積みではありますが、立ち止まることなく静かに力強く支援できればと思っております。

五位組「東日本大震災」救援ボランティア派遣に参加して

門徒推進員 杉森修和

このたび、五位組「東日本大震災」救援ボランティア派遣(第一期 災害支援隊)に参加させていただき、心から感謝申し上げます。

織田組長、藤田、福田各若院、笹島、杉森各門徒推進員は救援物資をトラックに積み込み、4月25日午前6時30分に石堤長光寺を出発し、北陸高速道路を新潟経由で一路 宮城県仙台市西本願寺仙台別院に急行いたしました。

◆午後4時頃到着し、すぐに関係職員と打合せを行い、明日の「炊き出し」場所である仙台市若林区六郷中学校に向かいました。現地に着後避難所の体育館内に入り代表者の方と挨拶・明日の「炊き出し」の詳細打合せを行った後、被災地である若林区の海岸線に向かいました。高速道路をくぐった所、道路は瓦礫の山、田圃はヘドロに覆われ、海岸線にあったはず



仙台市若林区の災害地域を
行く支援車

(2011年4月25日 17時48分)

の松の木が海岸から4キロ以上内陸部にまで流れ、車はあちこちに散乱し、電柱は全て根元から折れていました。家の基礎だけが残っており転々とした集落であったことは分かるが、見渡す限り立っている家はほとんど無く、信号機は作動していませんでした。小学校と思われる鉄筋の校舎は三階まで漂着物が窓を貫き、体育館は激しく破損し、津波の恐ろしさを強く感じました。

◆二日目は、午前10時過ぎに別院を出て仙台市若林区六郷中学校へと向かい、炊き出しの準備にかかりました。準備完了後、昼食をかねて仙台港に向かいましたが、港では水産加工場や倉庫の様な大型建築物が激しく破損し、道路脇は瓦礫の山でその中にタンクローリーや冷凍車両等が何台も横転していました。二時間後、六郷中学に戻り16時頃より大鍋でお湯を沸かし、17時には全ての炊き出しの準備が完了しました。



高岡市観光協会からお借りした
大釜やざるでの炊き出し

(2011年4月26日 17時53分)



多くの方に食べていただいた
炊き出し「うどん」

(2011年4月26日 18時33分)

早速、体育館にいる避難者の方々に声をかけたところ、見る見るうちに長蛇の列となり、一段とうどん作りに力がいりました。避難所の方々からは「熱いうどんありがとう」と何度も何度もお礼の声が聞こえ、とても喜んでいただきました。18時40分頃まで目の回る忙しさでしたが、楽しく320食あまりのうどんを食べていただきました。



多賀城市内の三階建て 料理店の片付け清掃

（2011年4月27日 10時39分）

しかし、避難の方々の中には、「家・家族・父母・兄弟姉妹・親戚の方を亡くした」「まだ行方不明で遺体分からない」と話される方もあり、返す言葉もありませんでした。

◆三日目は、別院を午前8時過ぎに出て、多賀城市に向かいました。市役所で受付を行った後、順番待ちでしたが、40数人目でやっと係の方にボランティアの作業場所の指示を受け、センターの送迎用のマイクロバスで現地まで送っていただきました。そこは、多賀城市内の三階建ての韓国料理店でしたが家族

の住宅となっていた一階部分は、1.5mまで水に浸かったようで、今は2階のお店部分と3階の一部に住まいしているとのことでした。作業は、一階部分の住宅裏の物置の片付け清掃を行いました。損壊している屋根の解体、その中であつた商業用の大きな冷蔵庫の撤去、散乱した茶碗等の片付け、土間の土砂の撤去をし、最後は水洗いをしてヘドロを洗い流しました。2時半頃には終わりましたが、最後に店の主人夫婦、祖母の方が親切丁寧にお礼を述べていただきました。3時頃に市役所に戻り解散の後、もう一度仙台台港付近の視察をし別院に戻りました。

◆四日目は、三日間お世話になった西本願寺仙台別院の清掃奉仕をし、9時半頃別院を出発し一路気仙沼に向かいました。お昼ごろ気仙沼港に到着しましたが、市内の建物は全て損壊し、道路は水浸しのままで、瓦礫の山の中を車が通り抜けている状態でした。



気仙沼市 打ち上げられた船舶

（2011年4月28日 12時44分）



気仙沼市 建物すべて損壊

（2011年4月28日 12時40分）

路上には何百トンの大きな船や小型船が何隻も打ち上げられ流されてきておりました。

また、岸壁には何百トンの遠洋漁業船が何隻も真っ黒に焼け焦げ、港付近の陥没もひどく、加工所倉庫より津波で散乱した魚介類の異臭が漂い悲惨な状況でありました。

高台にある小学校と中学校が避難所となっており、沢山の方が避難されていきました。ここ気仙沼は仙台とちがう形の大きな被害を受けていました。午後2時過ぎに気仙沼を発ち、東北・磐越・北陸自動車を乗り継ぎ、午後11時30分に石堤長光寺に到着いたしました。

◆今回のボランティアを通し、総てのものを破壊し、人間の生命まで奪ってしまう津波の恐ろしさが一段とわかりました。被災者の方々はこれから先どのようにして生きていくのでしょうか。皆で助け合っていきたいと思っております。

しかし、このような現実の中、六郷中学校の被災者の方々は皆元気でありましたが、本当は避難生活に耐えるもどかしい思いをしておいでるに違いないと感じました。いずれにしても、将来の展望が開けないことが問題です。さらに、心のケアに万全を期さなければならぬと強く思いました。

五位組 東日本大震災救援活動支援金報告

「ご支援をいただいた方々

親鸞聖人750回大遠忌法要

五位組団体参拝参加者各位

長光寺 浄永寺 珉照寺

光源寺 性宗寺 永賢寺

法善寺 西光寺 浄明寺

光明寺 廣濟寺 教願寺

永念寺 善教寺 本正寺

西福寺

五位組門徒推進員

協議会役員一同

加藤悦夫 山本隆資

笹島久昭 吉田一夫

高岡市役所 生原善勝

広地功七 山崎藤寿一

立浪安一 杉森修和

松代周一 木藤良一

山口久明 山岡石材

窪田唯志 坂中商店

西田進 谷崎吉揮

山下義彦 竹越勇信

伊東光男 前田清二

井村卓志 城山昭市

(順不同 敬称略 7月5日現在)

五位組東日本大震災支援活動支援金に多くのご協力をいただき、ありがとうございます。

支援金総額	673,194円
第一回、第二回支援活動支出	336,184円
7月5日現在支援金残高	337,010円

東日本大震災救援活動「支援金」の御依頼

「義援金」とは、集めた募金を赤十字等の団体に預けた後、総額を被災者全員に等分し現金でお渡しするシステムです。それに対して、

「支援金」とは、災害に遭われた被災者や学校等に対し個々の団体が支援物資購入費・炊き出し材料費準備費・現地までの交通費等にあて、実際の被災地での活動費に使用するための募金です。

五位組では、4月10、11日の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要団体参拝において支援金をお願いをし、4月25日より28日の4日間、「第一回 災害支援隊」を派遣し、また、6月13日から15日までの3日間には「第二回 災害支援隊」を派遣しました。

しかし、未だ現地の状況は悪く支援を必要とする地区が多くあり、今後も現地への支援隊の派遣を継続したいを考え、あらためて皆様の御支援をいただきたくお願い申し上げます。

編集後記

東日本大震災による甚大な被害をかんがみ、五位組では第一回・第二回の支援活動の現状を皆さんに知ってもらうという事で特別号を発刊することになりました。

支援活動に参加させていただいた一人として思ったことは、津波による被害やたくさん亡くなられた方の事を思うと、自然と念仏が出てくださるのは正に念仏道場になっていると思えます。仙台別院の近くには、おいしい牛タン店もあります。組長さんの熱意に負けじと、東北へ行きたいと思う気持ちでいます。

合掌

1. 募金内容 五位組 東日本大震災支援活動「支援金」
2. 金額 一口 1,000円 ※特に決まりはありませんが、一つの目安として
3. 納付先 五位組各寺院に直接お納めください。
4. 事務局 五位組 組長事務所 (高岡市石堤3661 長光寺 Tel.0766-31-1128)
※御不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。